

1 四面体 $OABC$ において $\triangle ABC$ の重心を G とし、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とする。辺 OC 上に点 P をとり、 $\overrightarrow{OP} = t\vec{c}$ ($0 < t < 1$) とする。さらに $\triangle ABP$ と線分 OG との交点を X とし、 $\overrightarrow{OX} = s\overrightarrow{OG}$ ($0 < s < 1$) とする。このとき以下の問いに答えよ。

(1) \overrightarrow{PX} を \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} と t 、 s を用いて表せ。

(2) 2点 P 、 X を結ぶ直線と線分 AB との交点 M が線分 AB の中点であることを証明せよ。

(3) $\triangle OMC$ において 2点 C 、 X を結ぶ直線と線分 OM との交点を N とする。 $NX : XC = 2 : 5$ のとき t と s の値を求めよ。

2 四面体 $OABC$ において、 $OA = OB = OC = 2$ かつ $BC = 3$ であるとする。 $\triangle OBC$ の重心を G とするとき、直線 AG は $\triangle OBC$ を含む平面に垂直であるとする。

(1) 内積 $\vec{OB} \cdot \vec{OC}$ を求めよ。

(2) 点 B から $\triangle OAC$ を含む平面に下ろした垂線は、直線 AG と交わらないことを示せ。

3 $0 < t < 3$ を満たす実数 t に対し、平面上の相異なる 4 点 O, A, B, C を次の条件 (i), (ii) を満たすようにとる。

(i) \vec{OA} と \vec{OB} のなす角を θ とするとき、 $\tan \theta = \frac{1}{t+1}$

(ii) $\vec{OA} \cdot \vec{OC} = t-3, \vec{OB} \cdot \vec{OC} = 0$

線分 OA を $t:1$ に内分する点を D とし、 $\triangle OCD$ の面積を $S(t)$ とする。 $S(t)$ の最大値を求めよ。

4 x, y, z を $0 < x < 1, 0 < y < 1, 0 < z < 1$ を満たす実数とする. 面積が1の $\triangle ABC$ において, 辺 BC, CA, AB 上にそれぞれ点 D, E, F を $\frac{BD}{BC} = x, \frac{CE}{CA} = y, \frac{AF}{AB} = z$ を満たすようにとる. $\triangle AFE$ の面積を S_1 , $\triangle DEF$ の面積を S_2 とおくと, 次の問いに答えなさい.

(1) $x = \frac{2}{3}, y = \frac{2}{3}, z = \frac{1}{3}$ のとき, S_1 と S_2 を求めなさい.

(2) S_2 を x, y, z を用いて表しなさい.

(3) $\triangle ABC$ の重心と $\triangle DEF$ の重心が一致し, かつ $S_2 = \frac{1}{3}$ が成り立つような x, y, z の組 (x, y, z) をすべて求めなさい.

5 三角形 ABC とその内部に点 O があり, 正の実数 k, l に対して

$$\vec{OA} + k\vec{OB} + l\vec{OC} = \vec{0}$$

を満たしていると仮定する. さらに直線 OA と辺 BC, 直線 OB と辺 CA, 直線 OC と辺 AB の交点をそれぞれ D, E, F とする. このとき, 次の各問いに答えよ.

- (1) $\vec{OD} = x\vec{OA}$ とおくとき, x を k, l を用いて表せ. さらに $\frac{OD}{AD}$ を k, l を用いて表せ.
- (2) $\vec{OE} = y\vec{OB}$ とおくとき, y を k, l を用いて表せ. さらに $\frac{OE}{BE}$ を k, l を用いて表せ.
- (3) $\frac{OD}{AD} + \frac{OE}{BE} + \frac{OF}{CF} = 1$ を示せ.

6 一辺の長さが1の立方体OABC-DEFGにおいて、線分BFを2:1に内分する点をP、線分EFの中点をQとする。また、線分OFと平面PQGの交点をRとする。次の各問いに答えよ。

(1) ベクトル \vec{OP} , \vec{OQ} を, $\vec{a} = \vec{OA}$, $\vec{c} = \vec{OC}$, $\vec{d} = \vec{OD}$ を用いて表せ。

(2) $\vec{OR} = s\vec{OF}$ を満たす実数sを求めよ。

(3) $\triangle PQG$ の重心をSとすると、線分RSの長さを求めよ。

7 正方形 ABCD の辺を除く内部に、 $PA \perp PB$ を満たす点 P がある。ベクトル \vec{PC} を $x\vec{PA} + y\vec{PB}$ と表すとき、以下の問いに答えよ。

(1) $\alpha = \frac{|\vec{PB}|}{|\vec{PA}|}$ とするとき、 x, y を α を用いて表せ。

(2) 点 P が題意の条件を満たしながら動くとき、(1) で求めた x, y の和 $x + y$ の最大値を求め、そのときの P がどのような点かを答えよ。

8 n を 4 以上の整数とする. 座標平面上で正 n 角形 $A_1A_2\cdots A_n$ は点 O を中心とする半径 1 の円に内接している. $\vec{a} = \overrightarrow{OA_1}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OA_2}$, $\vec{c} = \overrightarrow{OA_3}$, $\vec{d} = \overrightarrow{OA_4}$ とし, $k = 2\cos\frac{2\pi}{n}$ とおく. そして, 線分 A_1A_3 と線分 A_2A_4 との交点 P は線分 A_1A_3 を $t:1-t$ に内分するとする.

(1) \vec{a} および \vec{d} を, \vec{b} , \vec{c} , k を用いて表せ.

(2) t を k を用いて表し, $\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$ を示せ.

(3) 不等式 $\frac{\Delta PA_2A_3}{\Delta A_1A_2A_4} > \frac{1}{12}$ を示せ.

9 座標空間内の次のような4点 A, B, C, D を考える. A の座標は $(\sqrt{2}, \sqrt{3}, \sqrt{6})$, 3点 B, C, D は, それぞれ x 軸, y 軸, z 軸上にある. さらに, これらの4点は同一平面上にあり, 四角形 $ABCD$ は平行四辺形である. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) 3点 B, C, D の座標を求めよ.

(2) 平行四辺形 $ABCD$ の面積を求めよ.

(3) 原点 O から平行四辺形 $ABCD$ を含む平面に垂線 OH を下ろす. 点 H の座標を求めよ.

10 座標空間において、原点 $(0, 0, 0)$ と点 $(1, 1, -3)$ を通る直線を l 、2つの点 $(-6, 6, 0)$ 、 $(1, 2, 1)$ を通る直線を m とする。直線 l 上の点 P と直線 m 上の点 Q を、直線 PQ が直線 l 、 m のいずれにも直交するようにとる。次の問いに答えよ。

(1) $|\overrightarrow{PQ}|$ を求めよ。

(2) A を直線 l 上の点、 B を直線 m 上の点とする。ただし、 $A \neq P$ とする。このとき、 $\angle APB = \frac{\pi}{2}$ であることを示せ。

(3) 直線 l 上の2点 A 、 C をそれらの中点が P となるようにとる。同様に、直線 m 上の2点 B 、 D をそれらの中点が Q となるようにとる。 $|\overrightarrow{PA}| = a$ 、 $|\overrightarrow{QB}| = b$ のとき、三角形 BDP の面積と四面体 $ABCD$ の体積を求めよ。

11 xyz 空間内に 3 点 $A(2, 0, 1)$, $B(0, 3, -1)$, $C(0, 3, -3)$ がある. 線分 BC 上の点を $P(0, 3, s)$ とおく. 線分 AP を $t:(1-t)$ に内分する点を Q とする. ただし, t は $0 < t < 1$ を満たす. 点 Q を中心とする半径 3 の球面を K とし, 球面 K と xy 平面が交わってできる円の面積を S_1 , 球面 K と yz 平面が交わってできる円の面積を S_2 とおく. 以下の問いに答えよ.

(1) 球面 K の方程式を求めよ.

(2) S_1 を s と t の式で表せ.

(3) 点 P は線分 BC 上で固定し, 点 Q は線分 AP 上を動くものとする. $S_1 + S_2$ が最大値をとる t を s の式で表せ.

(4) (3)において点 Q が線分 AP の中点であるときに $S_1 + S_2$ が最大値をとるとする. このときの s の値を求めよ.

12 t を実数とする．空間の4点 $A(1, 5, 0)$, $B(4, 2, 0)$, $C(t, 2t, t-1)$, $D(1, 6, 1)$ について，以下の問いに答えよ．

- (1) $\triangle ABC$ が直角三角形になる t の値をすべて求めよ．
- (2) A, B, C, D が同一平面上にあるような t の値を求めよ．
- (3) $\angle BAC$ が直角のとき，四面体 $ABCD$ の体積を求めよ．

13 空間内の3点 A, B, C を頂点とする $\triangle ABC$ を考える. 2辺 BC, AC の中点をそれぞれ M, N とし, 中線 AM と BN の交点を G とする. 以下の問いに答えよ.

(1) \overrightarrow{AG} を, \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{AC} を用いて表せ.

(2) 2点 P, Q が $\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} + \overrightarrow{PC} = \overrightarrow{PQ}$ を満たすとき, 3点 P, Q, G は同一直線上にあることを示せ.

(3) $\triangle ABC$ の頂点の座標が $A(0, 0, 1)$, $B(7, 0, 6)$, $C(2, 12, 5)$ であるとき, xy 平面上を動く点 $P(x, y, 0)$ を考える. このとき, $|\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} + \overrightarrow{PC}|$ の最小値とそのときの P の座標を求めよ.

(4) (3)において, 特に点 $P(x, y, 0)$ が, xy 平面上の円 $x^2 + y^2 = 1$ の周上を動くものとする. $|\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} + \overrightarrow{PC}|$ の最大値とそのときの P の座標, および最小値とそのときの P の座標を, それぞれ求めよ.

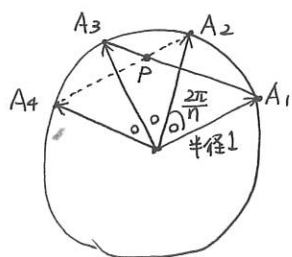
2017年 理学部 (数学・情報数理) 第1問

1 枚目 / 2

増田

1 n を 4 以上の整数とする. 座標平面上で正 n 角形 $A_1A_2\cdots A_n$ は点 O を中心とする半径 1 の円に内接している. $\vec{a} = \overrightarrow{OA_1}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OA_2}$, $\vec{c} = \overrightarrow{OA_3}$, $\vec{d} = \overrightarrow{OA_4}$ とし, $k = 2\cos\frac{2\pi}{n}$ とおく. そして, 線分 A_1A_3 と線分 A_2A_4 との交点 P は線分 A_1A_3 を $t:1-t$ に内分するとする.

- (1) \vec{a} および \vec{d} を, \vec{b} , \vec{c} , k を用いて表せ.
 (2) t を k を用いて表し, $\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$ を示せ.
 (3) 不等式 $\frac{\Delta PA_2A_3}{\Delta A_1A_2A_4} > \frac{1}{12}$ を示せ.



$$(1) \vec{b} \cdot \vec{c} = |\vec{b}| |\vec{c}| \cos \frac{2\pi}{n} = \frac{k}{2}$$

$$\vec{d} = x\vec{b} + y\vec{c} \text{ とおく.}$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = x + y\vec{b} \cdot \vec{c} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \frac{2\pi}{n}$$

$$\therefore x + \frac{k}{2}y = \frac{k}{2}$$

$$\vec{a} \cdot \vec{c} = x\vec{b} \cdot \vec{c} + y = |\vec{a}| |\vec{c}| \cos(2 \times \frac{2\pi}{n})$$

$$\therefore \frac{k}{2}x + y = 2\left(\frac{k}{2}\right)^2 - 1$$

連立方程式

$$\begin{cases} x + \frac{k}{2}y = \frac{k}{2} \\ \frac{k}{2}x + y = \frac{k^2}{2} - 1 \end{cases}$$

を解くと, $x = k$, $y = -1$

$$\vec{d} = k\vec{b} - \vec{c} \quad \#$$

また, \vec{d} の場合も $\vec{d} = x\vec{b} + y\vec{c}$ とおいて, $\vec{c} \cdot \vec{d}$ と $\vec{b} \cdot \vec{d}$ を計算することから $x = -1$, $y = k$

$$\vec{d} = -\vec{b} + k\vec{c} \quad \#$$

- (2)
- P
- は
- A_1A_3
- を
- $t:1-t$
- に内分するので

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-t)\vec{a} + t\vec{c} \\ &= (k-kt)\vec{b} + (2t-1)\vec{c} \end{aligned}$$

 P は直線 A_2A_4 上にもあるので, $\vec{A_2P}$ と $\vec{A_2A_4}$ は実数倍の関係にある.

$$\begin{aligned} \vec{A_2P} &= \vec{OP} - \vec{b} \\ &= (k-kt-1)\vec{b} + (2t-1)\vec{c} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \vec{A_2A_4} &= \vec{d} - \vec{b} \\ &= -2\vec{b} + k\vec{c} \end{aligned}$$

 $(k-kt-1):(-2) = (2t-1):k$ だから

$$(k^2-4)t = (k+1)(k-2)$$

ここで, $\cos\frac{2\pi}{n} \neq 1$ より $k \neq 2$ 両辺を $(k-2)$ で割り,

$$(k+2)t = k+1$$

また, n は 4 以上だから

$$0 \leq \cos \frac{2\pi}{n} < 1$$

$$0 \leq k < 2$$

よってさらに $k+2 (\neq 0)$ で割り,

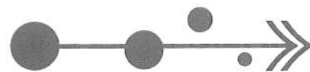
$$t = \frac{k+1}{k+2} \quad \#$$

$$t = \frac{k+1}{k+2} = 1 - \frac{1}{k+2}$$

 $0 \leq k < 2$ では,

$$\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$$

となる.



2017年 理学部 (数学・情報数理) 第1問

2枚目/2

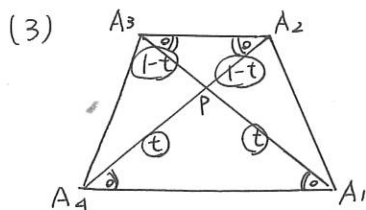
増

1 n を4以上の整数とする. 座標平面上で正 n 角形 $A_1A_2\cdots A_n$ は点 O を中心とする半径1の円に内接している. $\vec{a} = \vec{OA}_1$, $\vec{b} = \vec{OA}_2$, $\vec{c} = \vec{OA}_3$, $\vec{d} = \vec{OA}_4$ とし, $k = 2\cos\frac{2\pi}{n}$ とおく. そして, 線分 A_1A_3 と線分 A_2A_4 との交点 P は線分 A_1A_3 を $t:1-t$ に内分するとする.

(1) \vec{a} および \vec{d} を, \vec{b} , \vec{c} , k を用いて表せ.

(2) t を k を用いて表し, $\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$ を示せ.

(3) 不等式 $\frac{\Delta PA_2A_3}{\Delta A_1A_2A_4} > \frac{1}{12}$ を示せ.



対応する円周角が等しいなどの条件から,

$$\Delta A_1A_4P \sim \Delta A_3A_2P$$

かつ $A_2A_3 \parallel A_1A_4$ となる.

四角形 $A_1A_2A_3A_4$ の面積を S とすると,

$$\Delta PA_2A_3 = (1-t)^2 S$$

$$\Delta A_1A_2A_4 = t S$$

$$\frac{\Delta PA_2A_3}{\Delta A_1A_2A_4} = \frac{(1-t)^2 S}{t S} = \frac{(1-t)^2}{t}$$

$\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$ の範囲で $\frac{(1-t)^2}{t}$ の最小値を求める.

$$\frac{(1-t)^2}{t} = \frac{1}{t} \times (1-t)^2$$

関数 $\frac{1}{t}$ は $\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$ で単調減少

関数 $(1-t)^2$ は $\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$ で単調減少

よって $\frac{(1-t)^2}{t}$ は $t = \frac{3}{4}$ で最小値をとる.

$$\left\{1 - \left(\frac{3}{4}\right)\right\}^2 \times \frac{4}{3} = \frac{1}{12}$$

以上より, $\frac{\Delta PA_2A_3}{\Delta A_1A_2A_4} > \frac{1}{12}$ が示された. \square

